

Your Dream Is Our Business

化学で夢のお手伝い

BUSINESS REPORT

第156期 中間期 株主通信

2013年4月1日～

2013年9月30日

私たちは、化学技術の絶えざる革新を通じ、
お客様が期待し満足する
高品質の製品・サービスを世界に提供し、
環境調和型の生活文化の創造に貢献します。

事業概要

保土谷化学グループの特長は、機能性色素、機能性樹脂、基礎化学品、アグロサイエンス、物流などの各分野で、グループ企業各社が高いスペシャリティーを持っていることです。

研究開発・生産・販売が三位一体となり、お客様の多種多様な要望に対して、スピーディーに高品質の製品やサービスを提供してまいります。

機能性色素

有機EL材料
コピー機・プリンター用材料
各種染料など

Functional
Colorants

Basic Chemicals

基礎化学品

過酸化水素および周辺製品



HODOGAYA

機能性樹脂

ポリウレタンの原料
防水材(ウレタン系、セメント系)
医薬品・農業の中間材料

Specialty
Polymers

Agro-Science

アグロサイエンス

除草剤、殺虫剤、殺菌剤など



保土谷化学工業株式会社
代表取締役社長

喜多野利和

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに2013年度上期の業績および今後の見通しについて、ご報告申し上げます。

上期の業績について

景気拡大の継続を背景に

上期の業績は増収を確保しました。

2013年度上期の経済環境を振り返りますと、欧州、米国、中国など世界経済全体としては弱い回復が続く一方、国内では復興需要継続と大型補正予算編成や、日銀の大胆な金融緩和を受けた円安・株高の進行などに支えられて、景気拡大が継続しました。

このような情勢下、上期の連結売上高は、前年同期比3億23百万円増の171億35百万円を確保いたしました。当社事業においては、機能性樹脂・アグロサイエンスの2分野で増収を確保した一方、機能性色素・基礎化学品の2分野で減収となる、いわば一進一退の様相で推移する結果となりました。

□2014年3月期第2四半期連結業績サマリー

(前年同期比)

◆ 売上高	171億35百万円	1.9%
◆ 営業利益	60百万円	△58.4%
◆ 経常利益(△損失)	△98百万円	—
◆ 四半期純利益(△損失)	△3億11百万円	—

機能性樹脂セグメントにおいては、PTG（ポリウレタン原料）の国内需要の増加に加え、円安効果により輸出が大きく伸びたこと、またアグロサイエンスセグメントにおいても、家庭園芸用除草剤の需要が堅調に推移したことにより、増収となりました。また、機能性色素セグメントにおいては、有機EL材料の競争激化、基礎化学品セグメントにおいては、需要の減少により減収となりました。

また損益面では、研究開発費が増加したことにより、営業利益は前年同期比84百万円減の60百万円となりました。経常損失は、受取配当金や為替差益が増加したものの、前年同期比32百万円減の98百万円となり、上期純損失は、特別利益の増加（東京電力損害賠償金等）、特別損失の減少（投資有価証券評価損等）、法人税等の減少等により、前年同期比8億32百万円増の3億11百万円となりました。

なお、配当金につきましては、業績動向、将来の事業展開、不測のリスク対応等を総合的に勘案し、中間配当金を1株当たり2円とさせていただきます。

中期経営計画の進捗

中期経営計画最終年度の総仕上げに向けて
着実に成果を積み重ねています。

当社グループは、「創業100周年」を迎える2016年に「グローバル・ニッチ分野で、オンリーワン・ナンバーワン素材を提供し続ける企業」となることを目標に掲げております。この目標を実現するために、2011年度より中期経営計画“HONKI 2013”（Hodogaya as **O**nly one, **N**umber one with our **K**ey technology and **I**magination）をスタートさせました。“HONKI 2013”では、2013年度までに、今後の成長を強固に支える体制整備を完了させるべく、各事業（基盤・成長・育成・新製品創出）の強化を図っております。

上期においては、7月1日に連結子会社であった日本パーオキサイド㈱との合併を行いました。当社グループの一層の効率化・強化を目指したもので、現在郡山工場ではコストダウンに向けた設備工事を進めております。10月には、韓国SFC社の第2工場が完成いたしました。これにより、有機EL事業を拡大させてまいります。また色素材料事業においては、新たに上市したカラートリートメント用染料の生産に対応するため、生産能力の増強を行っております。これにより製品シェアの拡大を目指してまいります。更に、以前より課題となっていた、製品の適正在庫についての見直しを行い、経費を削減しております。

以上のように、上期においても、着実にその成果を積み重ねてまいりました。当社グループでは2016年の創業100周年に向けて、新たな中期経営計画の策定に着手しております。

通期の見通し

主体性とスピード感をもって
更なる企業体質強化に努めます。

株高・円安を背景に、我が国経済にも復調の兆しが見えてきたとはいえ、2013年度下期も米国の財政危機の動向や、国内の消費税増税の影響といった、今後の不確定要素によって、当面は先行き不透明な事業環境が続くことが予想されます。

こうした予断を許さない情勢の中ではありますが、2013年度下期におきましても、コスト削減や在庫の最適化、そして、研究開発や人材育成、技術継承などに努めながら世界に誇れるグローバル・ニッチ・カンパニーを目指してまいります。また、今まで以上に社員一人ひとりが主体性を発揮しながら、スピード感をもって業務に邁進するとともに、事実を見極める「虫の眼」、全体を俯瞰する「鳥の眼」、時代の流れを読み取る「魚の眼」をもって、社会や事業環境を正確に捉え、更なる企業体質の強化に取り組んでいく考えです。

上記の経営環境や取り組みを踏まえた2013年度通期の連結業績予想は、売上高360億円（前期比2.3%増）、営業利益10億円（前期比11.3%増）、経常利益5億円（前期比18.2%減）、当期純利益1億円を見込んでおります。また、期末配当金につきましては、1株当たり2円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、以上の状況をご賢察の上、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2013年12月



保土谷化学と日本パーオキサイドが合併

7月1日、当社は100%子会社であった日本パーオキサイド(株)と合併し、新体制のもとで新たなスタートを切りました。

この合併は、当社グループの基盤事業である「過酸化水素およびその周辺製品」の市場環境が大きく変化してきている状況下で、グループの経営資源を効率的に活用することにより、

事業基盤の補完・強化を図りつつ、より競争力のある事業構造への転換を進めていくこと、更には、グループ全体の一層の効率化・強化を目指したものです。

この合併により、管理部門、研究開発部門、営業部門、製造部門など、各部門において更なる業務効率の向上を図ることで、競争力と経営体質の強化に取り組んでまいります。

SFC第2工場の完成

10月、韓国で有機EL材料の製造・販売を行う、当社グループSFC社の第2工場が完成いたしました。同社では、有機EL材料のひとつである、発光材料を製造しておりますが、第2工場の完成により顧客の需要伸張への対応準備が整いました。

当社グループでは、SFC社の発光材料に加え、当社の正孔輸送材料・電子輸送材料等、有機ELの3つの主要材料を製造・販売しております。現在、市場をリードしている韓国において、SFC社との連携をより一層強化し、有機EL材料事業の拡大を加速させてまいります。



機能性色素



上期の概況

イメージング材料事業は、コピー機・プリンター向け材料の在庫調整が進んだことに加え、円安効果もあり、増収となりました。

色素材料事業は、新たに上市したカラートリートメント用染料の寄与があったことに加え、アルミ着色用染料で、国内外の在庫調整にも進展が見られましたが、小型デジタル家電向けの低調が続き、減収となりました。

有機EL材料事業は、競争激化の中、減収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は45億81百万円、営業損失は5億6百万円となりました。

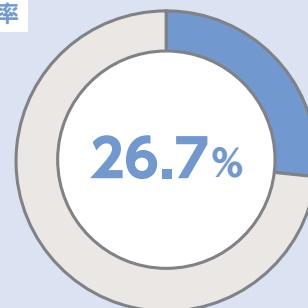
セグメント別売上高比率

※売上高

45億81百万円
(前年同期比0.6%減)

※営業利益(△損失)

△5億6百万円
(前年同期比—)



売上高(百万円)



営業利益(△損失)(百万円)



事業	用途
イメージング材料	トナーの重要な添加剤であるCCA(電荷制御剤)、コピー機・プリンターの心臓部品であるOPC(有機光導電体)ドラム用の材料、インクジェットプリンター用の染料
色素材料	アルミ着色用および文具用の染料、カラートリートメント用染料、食品添加物
有機EL材料	有機ELディスプレイ・照明用の主要材料(正孔輸送材料・電子輸送材料・発光材料)

機能性樹脂



上期の概況

樹脂材料事業では、PTG（ポリウレタン原料）の国内需要が堅調なことに加え、円安効果から、輸出が大きく伸び、また、接着剤も海外での需要が大きく伸びたことから、増収となりました。

建築材料事業は、材料販売で、ウレタン系防水材料分野の新規顧客獲得もあり、微増となりましたが、防水工事では、大型物件の獲得が伸び悩み、前年同期並みとなりました。

特殊化学品事業は、医薬品・樹脂関連・受託分野のいずれも需要が好調で、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は60億1百万円、営業利益は1億69百万円となりました。

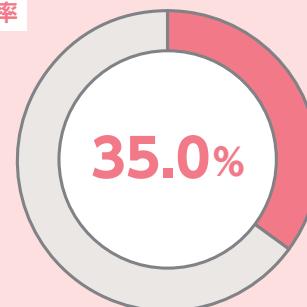
セグメント別売上高比率

❖売上高

60億1百万円
(前年同期比4.3%増)

❖営業利益

1億69百万円
(前年同期比53.6%増)



売上高(百万円)



営業利益(百万円)



事業

用途

樹脂材料

PTG(ポリウレタン原料)、接着剤、剥離剤、硬化剤

建築材料

ウレタン系防水材料
(ビルや立体駐車場の屋上 ほか)
セメント系防水材料・止水材
(下水場、浄水場、地下ピット ほか)

特殊化学品

医薬品・農薬・樹脂関連・電子材料などの中間材料

基礎化学品



上期の概況

過酸化水素は、主力の紙パルプ分野で、円安により一部需要が回復し、また、工業薬品向けも好調に推移しましたが、動物用医薬品の需要が減少したことにより、前年同期並みとなりました。

その他の過酸化水素の周辺製品は、競争の激化で、微減となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は34億60百万円、営業利益は73百万円となりました。

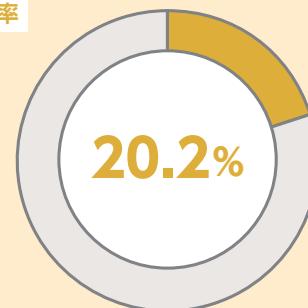
セグメント別売上高比率

※売上高

34億60百万円
(前年同期比3.9%減)

※営業利益

73百万円
(前年同期比36.5%減)



売上高(百万円)



営業利益(百万円)



事業

**工業薬品
(過酸化水素)**

用途

紙パルプ・繊維などの漂白剤、土壌処理などの環境浄化剤、養殖魚の寄生虫駆除剤 ほか

用語解説

過酸化水素

過酸化水素は、無色透明の液体で、化学式では“ H_2O_2 ”と表記され、強力な酸化力を有しているのが特徴です。分解すると酸素と水素になる、環境にやさしい化学物質として注目されています。

主な用途は、紙パルプの漂白です。塩素ガスを使用

しない漂白法として、過酸化水素が用いられています。家庭では衣類の漂白剤や、擦り傷などの消毒に使うオキシドールは、希釈した過酸化水素が用いられています。また、飲料用ペットボトルの殺菌剤としても用いられています。

アグロサイエンス



上期の概況

アグロサイエンス事業は、家庭園芸用除草剤が好調に推移したことにより、増収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は22億13百万円、営業利益は1億21百万円となりました。

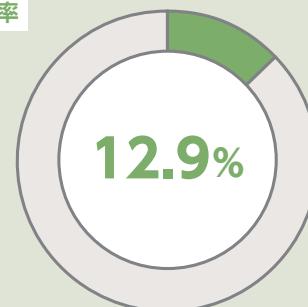
セグメント別売上高比率

※売上高

22億13百万円
(前年同期比6.8%増)

※営業利益(△損失)

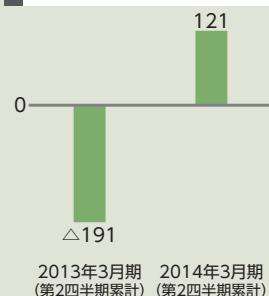
1億21百万円
(前年同期比—)



売上高(百万円)



営業利益(△損失)(百万円)



事業

用途

農業

非農耕地・ゴルフ場・緑地管理分野などの
除草剤・殺虫剤・生育調節剤 ほか

豆知識

ポリウレタン原料

私たちの生活には、様々な「樹脂」が存在します。衣類の場面では、スポーツウエアやストッキングなどに、伸縮性のある繊維が使われており、タグには、「ポリウレタン」と表示してあります。さらにファッションの場面では、くし付ドライヤーのくし部分に、

熱に強い樹脂が、樹脂製腕時計のベルト部分には、水や汗に強い樹脂が使われています。これらには、保土谷化学の「PTG(ポリウレタン原料)」が活躍しています。保土谷化学は皆様の暮らしの中で、とても身近なところに存在しています。

連結財務情報

■連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末 (2013年3月31日現在)	当第2四半期末 (2013年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	23,057	21,657
固定資産	28,707	30,276
有形固定資産	23,009	23,894
無形固定資産	1,888	1,755
投資その他の資産	3,810	4,626
資産合計	51,765	51,933

Point

1

Point 1 資産合計

資産合計は、投資有価証券の増加9億58百万円、有形固定資産の増加8億85百万円、受取手形及び売掛金の減少14億94百万円、商品及び製品の減少3億24百万円等により、前期末比1億68百万円増の519億33百万円となりました。

Point 2 負債合計

負債合計は、支払手形及び買掛金の減少5億85百万円、未払法人税等の減少2億17百万円、短期・長期借入金の増加6億16百万円等により、前期末比3億28百万円減の222億円となりました。

(単位:百万円)

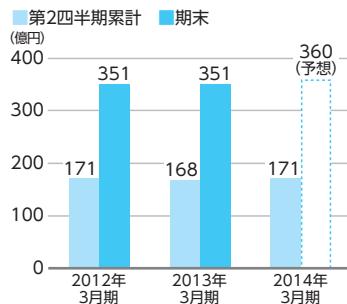
科目	前期末 (2013年3月31日現在)	当第2四半期末 (2013年9月30日現在)
負債の部		
流動負債	14,480	12,911
固定負債	8,048	9,288
負債合計	22,528	22,200
純資産の部		
株主資本	24,453	23,981
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	9,590	9,590
利益剰余金	5,358	4,888
自己株式	△1,691	△1,693
その他の包括利益累計額	3,002	3,672
新株予約権	72	40
少数株主持分	1,707	2,038
純資産合計	29,236	29,732
負債純資産合計	51,765	51,933

Point

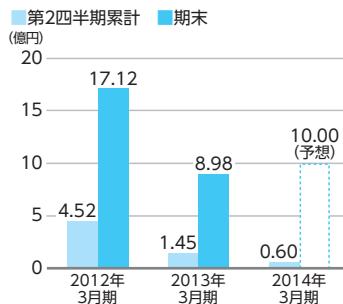
2

□連結業績の推移

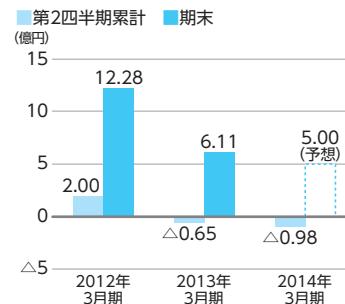
◆売上高



◆営業利益



◆経常利益(△損失)



■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 (2012年4月1日～ 2012年9月30日)	当第2四半期累計 (2013年4月1日～ 2013年9月30日)
Point 3 売上高	16,811	17,135
売上原価	11,994	11,880
売上総利益	4,817	5,255
販売費及び一般管理費	4,672	5,194
Point 4 営業利益	145	60
営業外収益	189	200
営業外費用	400	359
経常利益(△損失)	△65	△98
特別利益	142	218
特別損失	618	67
税金等調整前四半期純利益(△損失)	△542	51
法人税等	485	190
少数株主損益調整前四半期純利益(△損失)	△1,027	△138
少数株主利益	116	173
Point 5 四半期純利益(△損失)	△1,143	△311

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 (2012年4月1日～ 2012年9月30日)	当第2四半期累計 (2013年4月1日～ 2013年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,702	1,933
投資活動によるキャッシュ・フロー	△927	△1,981
財務活動によるキャッシュ・フロー	373	436
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	116
現金及び現金同等物の増減額	1,167	505
現金及び現金同等物の期首残高	6,557	5,321
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,725	5,826

Point 3 売上高

売上高は、機能性色素、基礎化学品で減少したものの、機能性樹脂、アグロサイエンスの増加により、前年同期比3億23百万円増の171億35百万円となりました。

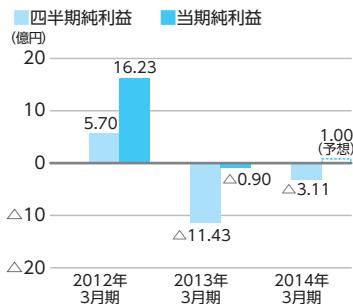
Point 4 営業利益

営業利益は、研究開発費の増加等により、前年同期比84百万円減の60百万円となりました。

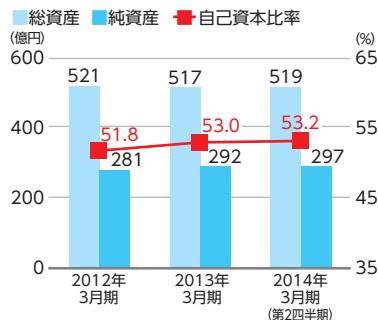
Point 5 四半期純利益

四半期純利益は、特別利益の増加(東京電力損害賠償金等)、特別損失の減少(投資有価証券評価損等)、法人税等の減少等により、前年同期比8億32百万円増の3億11百万円の損失となりました。

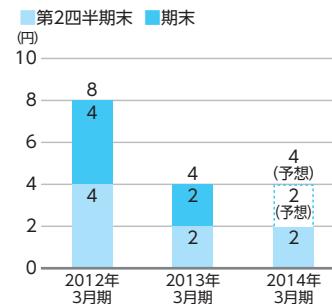
◆ 純利益(△損失)

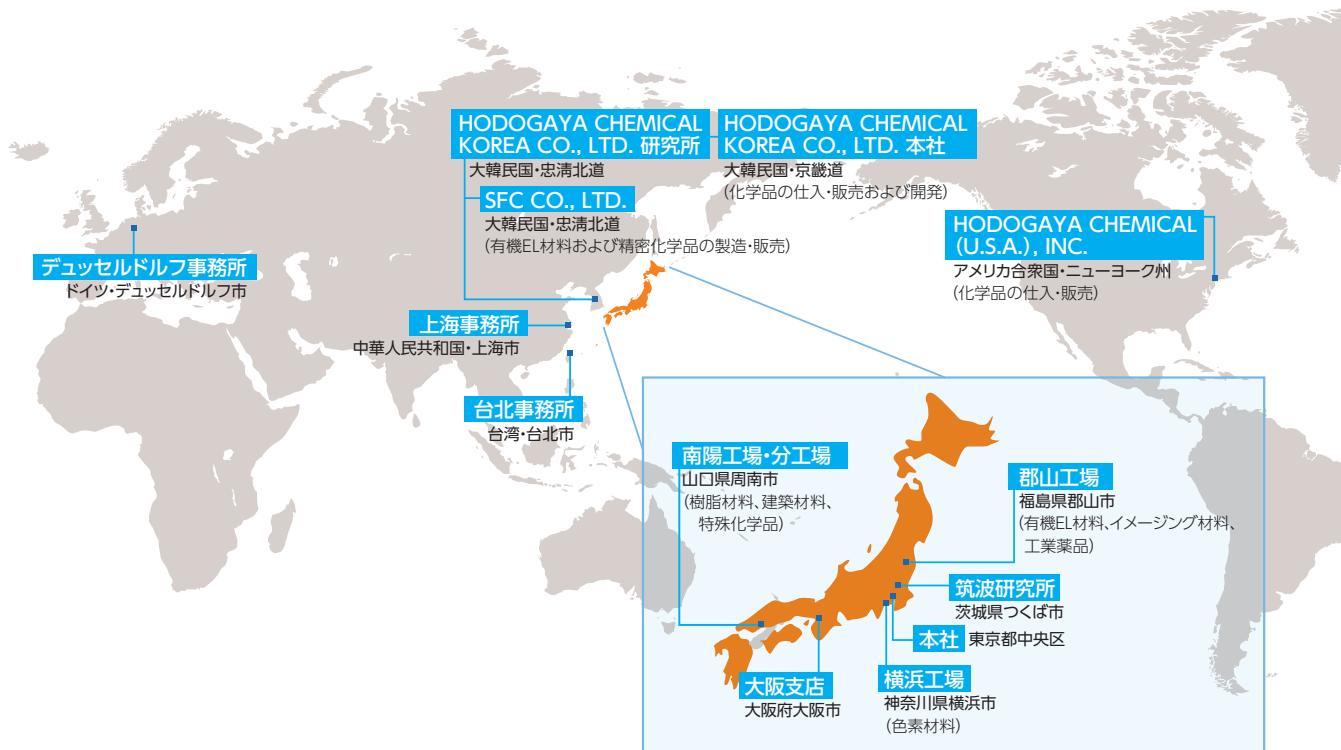


◆ 総資産・純資産



◆ 1株当たり配当金





グループ会社 (当社の出資比率)

機能性色素	
SFC CO., LTD. (大韓民国)	
有機EL材料および精密化学品の製造・販売	51.1%
機能性樹脂	
保土谷バンデックス建材(株)	
土木・建築材料の製造・販売	100.0%
アグロサイエンス	
保土谷UPL(株)	
農薬の製造・販売	60.0%
保土谷アグロテック(株)	
農薬の製造・販売	80.0%

他グループ会社 1社

その他	
桂産業(株)	
化学品の仕入・販売	100.0%
HODOGAYA CHEMICAL (U.S.A.), INC.	
化学品の仕入・販売	100.0%
HODOGAYA CHEMICAL KOREA CO., LTD.	
化学品の仕入・販売および開発	85.0%
保土谷ロジスティックス(株)	
倉庫業、貨物運送取扱業	100.0%
保土谷コントラクトラボ(株)	
化学品の分析および研究・開発業務受託	100.0%

他グループ会社 4社

会社概要

社名	保土谷化学工業株式会社
英文社名	Hodogaya Chemical Co., Ltd.
本社所在地	〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目4番1号 常和八重洲ビル
TEL	03-5299-8000(大代表)
FAX	03-5299-8250
設立	1916(大正5)年12月15日
資本金	111億96百万円
従業員	774名(連結)、511名(個別)

役員

代表取締役社長 兼 社長執行役員	喜多野利和	取締役	江守新八郎
取締役 兼 専務執行役員	蛭子井 敏	取締役 (社外)	加藤 周二
取締役 兼 常務執行役員	河野 彰一	常勤監査役	廣田 秀世
取締役 兼 常務執行役員	湯沢 和好	常勤監査役 (社外)	奥平 卓司
取締役 兼 常務執行役員	村上 政徳	監査役 (社外)	櫻井 琢平
取締役 兼 常務執行役員	阿部 嘉彦	監査役	杉浦 裕之

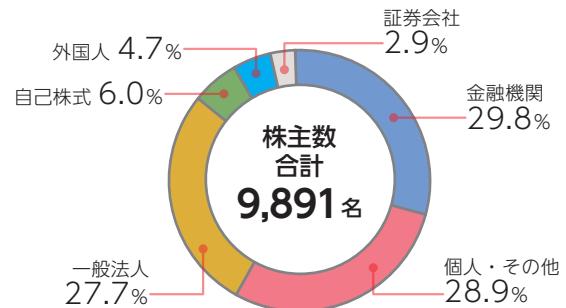
株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	84,137,261株
株主数	9,891名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
東ソー株式会社	16,828	20.0
保土谷化学工業株式会社	5,044	6.0
株式会社みずほ銀行	2,987	3.6
農林中央金庫	2,274	2.7
明治安田生命保険相互会社	1,645	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	1,602	1.9
株式会社東邦銀行	1,483	1.8
三井住友海上火災保険株式会社	1,414	1.7
株式会社山口銀行	1,300	1.5
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,259	1.5

所有者別株式分布状況



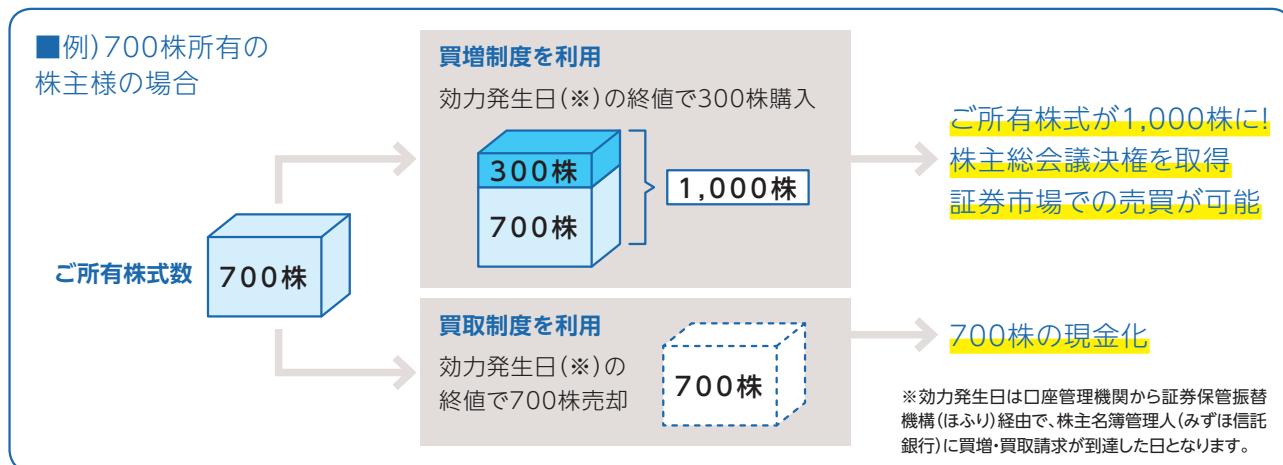
ご存じですか？

単元未満株式(1~999株)の買増・買取制度について

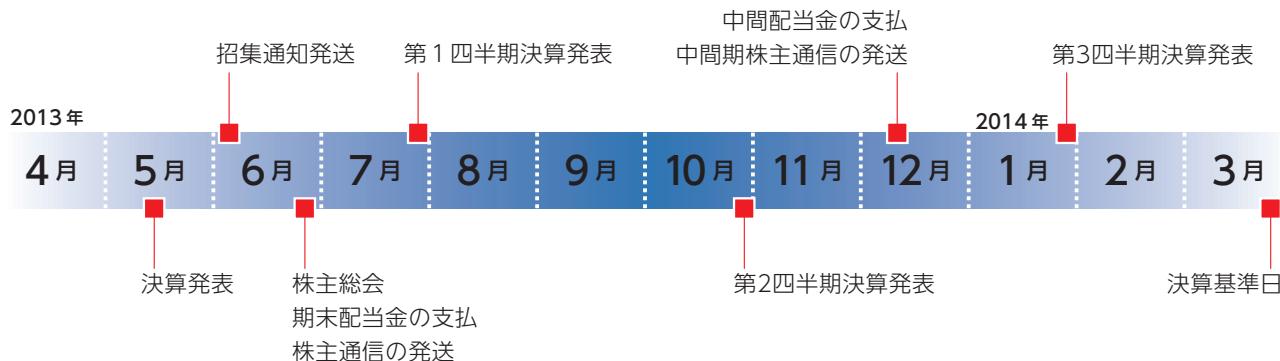
当社株式は、証券市場での売買、株主総会における議決権行使の権利が1,000株単位となっております。当社では、現在、単元未満株式をご所有の株主様に対し、単元未満株式を単元株式(1,000株)までお買い求めいただける「単元未満株式買増制度」を採用しております。

また、単元未満株式を売却できる「単元未満株式買取制度」もございますので、併せてご案内申し上げます。

なお、**買増・買取手続きにおける手数料は無料(当社負担)**とさせていただきますので、ぜひお申し込みください。お手続き・お問い合わせ先につきましては、「株式事務に関するお問い合わせ先」(14ページ)をご覧ください。



IRカレンダー 2013年度予定



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月中
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告(http://www.hodogaya.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の改正により、株主様に支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した支払通知書を通知することとなっております。つきましては、支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、2014年の確定申告の添付書類としてご使用ください。なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、2014年の確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

株式事務に関するお問い合わせ先

■証券会社等に口座をお持ちの場合

①郵便物送付先、お問い合わせ先

②各種手続きのお取扱い
(住所・名称・代表者変更、単元未満株式の買増・買取請求、配当金受取り方法の変更等)

③未払配当金のお支払

お取引の証券会社等

みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店

■証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)

①郵便物送付先、お問い合わせ先

②各種手続きのお取扱い
(住所・名称・代表者変更、単元未満株式の買増・買取請求、配当金受取り方法の変更等)

③未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
フリーダイヤル 0120-288-324

みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ証券 本店および全国各支店

みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店



当社ホームページでは、最新のIRニュースや財務情報など、株主・投資家様向けの情報はもちろんのこと、当社をより理解していただくための様々な情報を掲載しております。ぜひ一度ご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.hodogaya.co.jp/>

アンケートはインターネットまたはハガキで実施させていただきます。

今回はハガキに加え、インターネットでもお答えいただけますので、どちらか一方でのご回答をお願いします。
インターネットでの回答方法につきましては、下記をご覧ください。

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 4112

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2media)についての詳細 <http://www.a2media.co.jp>

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

インターネット限定
PRESENT

図書カードが当たります。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます。
アンケート回答期間は、本書がお手元に到着してから約2ヵ月間です。